

2019年第1四半期 連結決算概要

中外製薬株式会社
上席執行役員 CFO
板垣 利明

2019.4.24



重要な注意事項

将来見通し

本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

Core実績

当社はIFRS移行を機に2013年よりCore実績を開示しております。Core実績とはIFRS実績に当社が非経常事項と捉える事項の調整を行ったものであり、ロシュが開示するCore実績の概念とも整合しております。当社ではCore実績を、社内の業績管理、社内外への経常的な収益性の推移の説明、並びに株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標として使用しております。

注：

- ・ 本資料の数値は億円未満を四捨五入して表示。増減、%は億円単位で表示された数字で計算
- ・ 本資料の増減金額の表記は以下の通りです。
 - ① 収益及び原価・費用の増減は、増益方向を「+」、減益方向を「△」で表示
 - ② 増減率は金額の「増」「減」をそれぞれ「+」「△」で表示

Core



2019年第1四半期サマリー

- 増収増益の決算
- 売上収益・営業利益・四半期利益のいずれも第1四半期として過去最高
- 通期業績予想に対して好調な進捗

	2019年 1-3月	対前年同期 増減		対業績予想 進捗率
売上収益	1,543億円	+69億円	+4.7%	26.0%
売上原価 製商品原価率	△637億円 46.3%	△2億円 △4.6%pts	+0.3%	25.2%
経費	△427億円	△16億円	+3.9%	21.7%
営業利益 営業利益率	479億円 31.0%	+51億円 +2.0%pts	+11.9%	33.5%
四半期利益	363億円	+51億円	+16.3%	非公表
EPS	66.15円	+9.63円	+17.0%	33.4%



前年同期比 Core

損益の概要 1-3月実績

【億円】	2018年 1-3月	2019年 1-3月	増減	
売上収益	1,474	1,543	+69	+4.7%
製商品売上高	1,247	1,377	+130	+10.4%
国内	929	993	+64	+6.9%
海外	319	384	+65	+20.4%
ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入	227	166	△61	△26.9%
ロイヤルティ及びプロフィットシェア収入	50	137	+87	+174.0%
その他の営業収入	177	29	△148	△83.6%
売上原価	△ 635	△ 637	△2	+0.3%
製商品原価率	50.9%	46.3%	△4.6%pts	-
売上総利益	839	906	+67	+8.0%
経費計	△ 411	△ 427	△ 16	+3.9%
営業利益	428	479	+51	+11.9%
営業利益率	29.0%	31.0%	+2.0%pts	-
金融収支等	△ 7	△ 7	0	0.0%
法人所得税	△ 109	△ 109	0	0.0%
四半期利益	312	363	+51	+16.3%
EPS (円)	56.52	66.15	+9.63	+17.0%

- **国内**
薬価改定影響を上回る新製品や主力品の伸長により増加
- **海外**
アレセンサやアクテムラのロシュ向け輸出の増加
- **ロイヤルティ及びプロフィットシェア収入**
ヘムライブラに関する収入の増加
- **その他の営業収入**
前年同期に長期収載品の譲渡による一時金収入を計上したこと等により減少
- **売上原価**
製品別売上構成比の変化により製商品原価率が改善
- **経費**
研究開発費の増加により、経費全体で増加

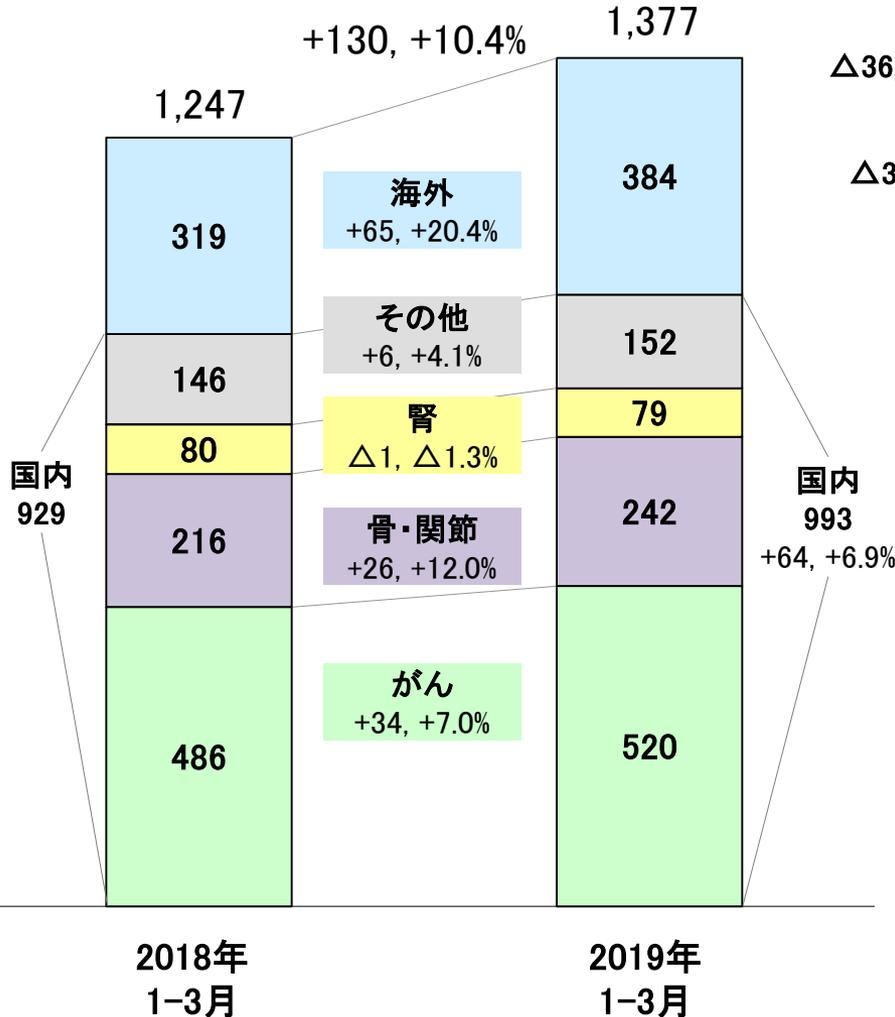


前年同期比 Core

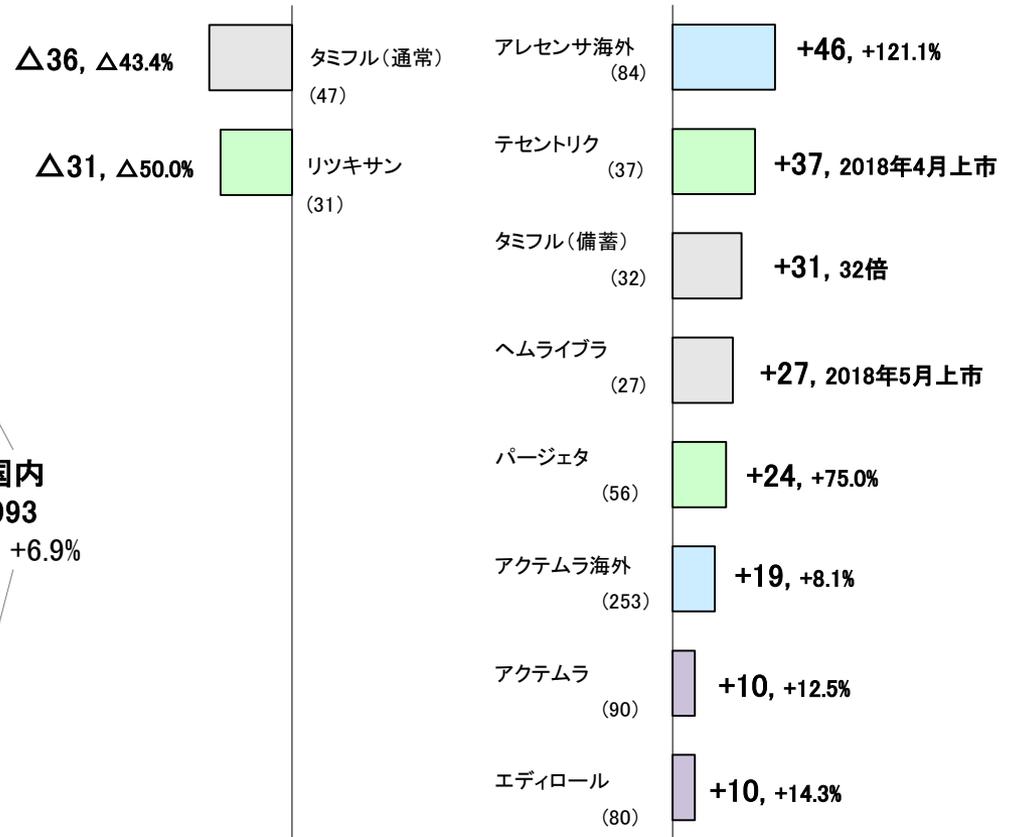
製商品売上高の増減内訳 1-3月実績

領域別売上高の比較

【億円】



主な製商品売上高の増減



HER2フランチャイズ内訳: (138) +20, 16.9%

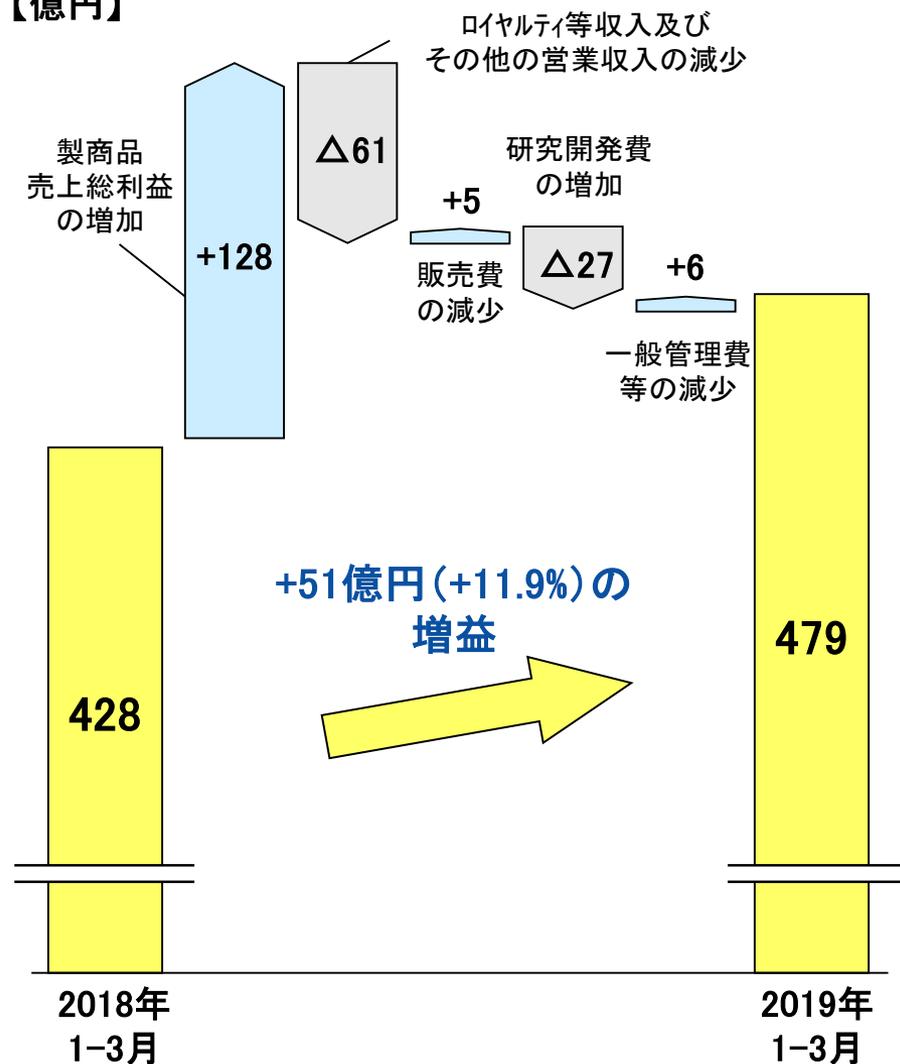
ハーセプチン (62)	△6	△8.8%
パージェタ (56)	+24	+75.0%
カドサイラ (20)	+2	+11.1%

()内は2019年実績
%は増減率

前年同期比 Core

営業利益の増減 1-3月実績

【億円】



【億円】	2018年 1-3月	2019年 1-3月	増減
売上収益	1,474	1,543	+69
製商品売上高	1,247	1,377	+130
ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入	227	166	△61
売上原価	△ 635	△ 637	△2
製商品原価率	50.9%	46.3%	△4.6%pts
売上総利益	839	906	+67
うち製商品	612	740	+128
販売費	△ 159	△ 154	+5
研究開発費	△ 209	△ 236	△27
一般管理費等	△ 43	△ 37	+6
営業利益	428	479	+51
営業利益率	29.0%	31.0%	+2.0%pts

- 製商品売上総利益の増加 **+128億円**
ロシュ向け輸出の増加や、製品別売上構成比の変化による製商品原価率の改善
- ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入の減少 **△61億円**
ヘムライブラに関する収入増の一方、前年同期に計上された長期収載品の譲渡に伴う一時金収入の影響により減少
- 研究開発費の増加 **△27億円**
開発テーマの進展等



予想比 Core

損益の概要 1-3月実績

【億円】	実績		業績予想	2018年 進捗率*
	2019年 1-3月	2019年 1-12月	進捗率	
売上収益	1,543	5,925	26.0%	25.4%
製商品売上高	1,377	5,280	26.1%	23.6%
国内	993	3,891	25.5%	23.2%
海外	384	1,389	27.6%	24.9%
ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入	166	645	25.7%	43.7%
ロイヤルティ及びプロフィットシェア収入	137	535	25.6%	20.7%
その他の営業収入	29	110	26.4%	63.4%
売上原価	△ 637	△ 2,525	25.2%	24.2%
製商品原価率	46.3%	47.8%		
売上総利益	906	3,400	26.6%	26.4%
経費計	△ 427	△ 1,970	21.7%	21.9%
うち研究開発費	△ 236	△ 1,020	23.1%	22.2%
営業利益	479	1,430	33.5%	32.8%
営業利益率	31.0%	24.1%		
EPS (円)	66.15	198.00	33.4%	32.0%

- 国内
予想を若干上回る業績での1Qスタート
- 海外
概ね予想通りの進捗
- ロイヤルティ及びプロフィットシェア収入
ヘムライブラに関する収入が予想比で好調に推移
- その他の営業収入
概ね予想通りの進捗
- 売上原価
製商品原価率が予想より若干改善傾向
- 経費
概ね予想通りの進捗

為替変動の影響 2019年1-3月 想定レート対比影響額	
売上収益	△6億円
製商品売上高	△2億円
ロイヤルティ等収入及び その他の営業収入	△4億円
売上原価	+0億円
経費	+1億円
営業利益	△4億円

* 1-3月実績の通期実績に対する進捗率



予想比 Core

製商品売上高 1-3月実績

【億円】	実績		業績予想		2018年 進捗率*
	2019年 1-3月	2019年 1-12月	進捗率		
製商品売上高	1,377	5,280	26.1%		23.6%
国内	993	3,891	25.5%		23.2%
がん領域	520	2,159	24.1%		21.5%
アバステン	214	894	23.9%		22.0%
アレセンサ	49	251	19.5%		19.4%
ハーセプト	62	240	25.8%		24.2%
パージェタ	56	212	26.4%		19.9%
リツキサン	31	135	23.0%		29.1%
テセントリク	37	131	28.2%		-
ゼローダ	24	94	25.5%		22.4%
カドサイラ	20	91	22.0%		21.2%
タルセバ	12	56	21.4%		22.9%
ガザイバ	6	18	33.3%		-
アラグリオ	1	4	25.0%		33.3%
骨・関節領域	242	1,031	23.5%		21.5%
アクテムラ	90	382	23.6%		20.9%
エディロール	80	353	22.7%		21.3%
ボンビバ	23	109	21.1%		22.3%
スベニール	17	61	27.9%		21.8%

【億円】	実績		業績予想		2018年 進捗率*
	2019年 1-3月	2019年 1-12月	進捗率		
腎領域	79	318	24.8%		22.0%
ミルセラ	50	205	24.4%		21.2%
オキサロール	16	59	27.1%		23.3%
その他領域	152	383	39.7%		38.9%
ヘムライブラ	27	129	20.9%		-
セルセプト	22	90	24.4%		22.2%
TAM通常	47	34	138.2%		82.2%
TAM備蓄	32	32	100.0%		20.0%
海外	384	1,389	27.6%		24.9%
アクテムラ	253	846	29.9%		29.0%
うちロシュ向け輸出	249	827	30.1%		29.2%
アレセンサ	84	366	23.0%		12.9%
うちロシュ向け輸出	82	360	22.8%		12.8%
ノイトロジン	25	95	26.3%		27.0%
ヘムライブラ	7	24	29.2%		30.4%

* 1-3月実績の通期実績に対する進捗率



Appendix



IFRS実績及びCore実績 1-3月実績

【億円】	IFRS実績	Non-Core調整		Core実績
	2019年 1-3月	無形資産	その他	2019年 1-3月
売上収益	1,543			1,543
製商品売上高	1,377			1,377
ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入	166			166
売上原価	△ 639	+2		△ 637
売上総利益	904	+2		906
経費計	△ 443	+16		△ 427
販売費	△ 154			△ 154
研究開発費	△ 251	+16		△ 236
一般管理費等	△ 37			△ 37
営業利益	461	+18		479
金融費用	△ 0			△ 0
その他の金融収入(支出)	2			2
その他の費用	△ 8			△ 8
税引前四半期利益	454	+18		472
法人所得税	△ 104	△5		△ 109
四半期利益	350	+12		363
当社の株主持分	350	+12		363

【Non-Core調整】

- 無形資産
償却費 +3億円
減損損失 +15億円
- その他
なし

Core当期利益の帰属
当社の株主持分 363億円 (A)

希薄化効果後
加重平均普通株式数 548百万株 (B)

Core EPS 66.15円 (A)/(B)



早期退職優遇措置の実施

背景

- 新薬開発の難易度上昇や国内での薬価制度の抜本改革等 厳しい市場環境の到来
- デジタル化等のテクノロジー進展に伴う事業活動の変革

目的

- 就業意識やライフスタイルの多様化により、早期に退職して新たなライフプランに基づく人生設計を考える従業員への支援
- 激変する事業環境における経営課題の推進

概要

対象者	満45歳以上の正社員およびシニア社員 (別途定める適用要件を満たす者)
募集期間	2019年4月1日～2019年4月19日
退職日	2019年6月30日
応募人数	172名
措置の内容	①退職加算金 ②再就職支援
業績への影響	特別加算金等約51億円をNon-Core項目として計上予定 ※Coreベースの2019年12月期連結業績予想への影響は軽微

予想比 Core

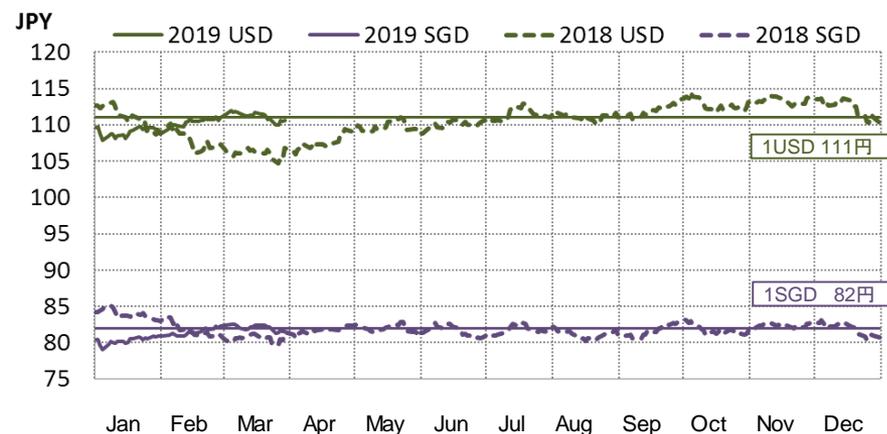
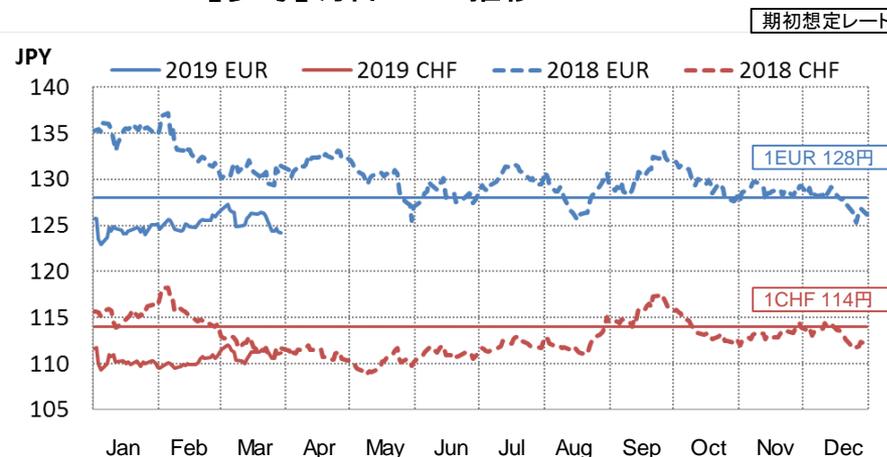
為替変動の影響

	2019年1-3月 想定レート対比影響額	
売上収益	△6億円	
	製商品売上高	△2億円
	ロイヤルティ等収入及び その他の営業収入	△4億円
売上原価・経費	売上原価	+0億円
	経費	+1億円
営業利益	△4億円	

実績/想定レート*	2018年 1-3月実績	2019年 期初想定	2019年 1-3月実績
1CHF	114.33円	114.00円	110.52円
1EUR	133.17円	128.00円	125.17円
1USD	108.40円	111.00円	110.18円
1SGD	82.16円	82.00円	81.32円

*実績は期中市場平均

【参考】為替レート推移





前期末比

財政状態の概要

【億円】	2018年 12月末	2019年 3月末	増減
営業債権	1,508	1,496	△ 12
棚卸資産	1,594	1,687	+ 93
営業債務	△ 359	△ 549	△ 190
その他の純運転資本*1	△ 391	△ 191	+ 200
純運転資本	2,351	2,443	+ 92
有形固定資産	2,224	2,221	△ 3
使用権資産	-	125	+ 125
無形資産	227	219	△ 8
その他の長期純営業資産*2	251	279	+ 28
長期純営業資産	2,701	2,843	+ 142
純営業資産 (NOA)*3	5,053	5,286	+ 233
有利子負債	△ 2	-	+ 2
有価証券	1,025	1,115	+ 90
現金及び現金同等物	1,469	1,258	△ 211
ネット現金	2,492	2,374	△ 118
その他の営業外純資産*4	21	△ 55	△ 76
純営業外資産	2,513	2,318	△ 195
純資産合計	7,565	7,605	+ 40
資産合計	9,195	9,322	+ 127
負債合計	△ 1,630	△ 1,718	△ 88

*1 例: 未収入金、未払金、未払費用等

*2 例: 長期前払費用、長期引当金等

*3 NOA: Net Operating Assets

*4 例: 繰延税金資産、未払法人所得税等

【主な増減】

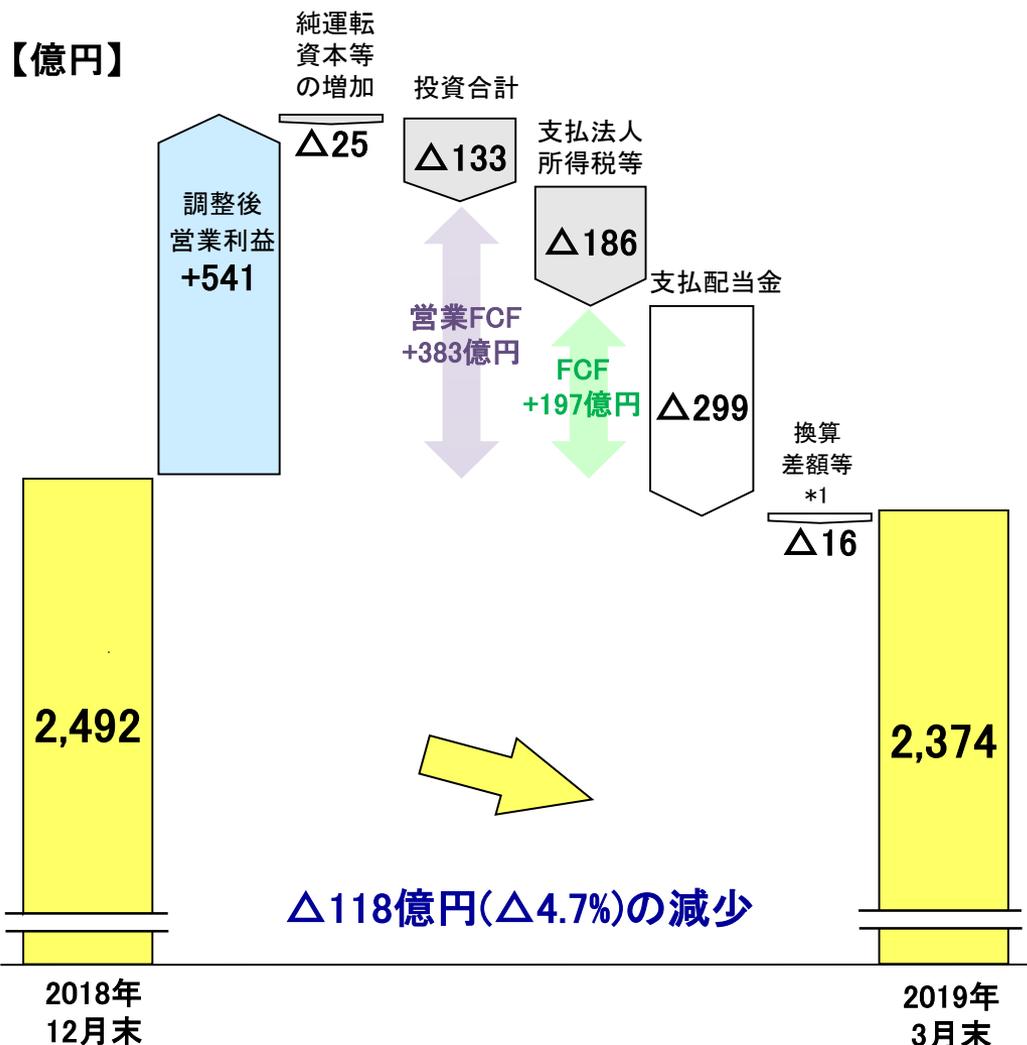
- **純運転資本の増加** **+92億円**
 - 棚卸資産の増加 **+93億円**
 - 営業債務の増加 **△190億円**
 - その他の純運転資本の増加 **+200億円**
 - ヘムライブラの受取ロイヤルティの増加及び製造委託に関わる長期前払費用の精算等
- **長期純営業資産の増加** **+142億円**
 - 使用権資産の増加 **+125億円**
 - IFRS16適用による影響
 - その他の長期純営業資産の増加 **+28億円**
- **ネット現金の減少** **△118億円**
- **その他の営業外純資産の減少** **△76億円**
 - IFRS16適用によるリース負債の増加等
- **当社の株主帰属持分比率(資本)** **△0.6%pts**
 - 2019年3月末 **81.6%**
 - 2018年12月末 **82.2%**

期末日レート

	2018年 12月末	2019年 3月末
1CHF	112.03円	111.11円
1EUR	126.13円	124.15円
1USD	110.28円	110.64円
1SGD	80.70円	81.56円

前期末比

ネット現金の増減



● 調整後営業利益	+541億円
営業利益	+461億円
有形固定資産の減価償却費及び減損損失	+37億円
使用権資産の減価償却費及び減損損失	+15億円
無形資産の償却費及び減損損失	+21億円
営業利益へのその他の調整	+8億円
● 純運転資本等の増加	△25億円
● 投資合計	△133億円
有形固定資産の取得による支出	△74億円
リース負債の支払による支出	△22億円
無形資産の取得による支出	△38億円
営業フリー・キャッシュ・フロー	+383億円
● 支払法人所得税等	△186億円
フリー・キャッシュ・フロー	+197億円
● 支払配当金	△299億円
● 換算差額等	△16億円

*1 「換算差額等」＝「自己株式の減少(増加)」+「非支配持分の取得」+「ネット現金の換算差額(*2)等」

*2 在外子会社の財務諸表の換算レート(ネット現金:期末日レート/FCF:期中平均レート)の違いから発生(IAS第7号・IAS第21号を参考に、当社が定義)



資本効率性指標 Core ROICを重視

将来成長のための投資を積極的に行い、持続的な利益成長・企業価値拡大を実現するための経営指標として、2019年からCore ROICを社内KPIとして導入

持続的な利益成長・企業価値拡大



短期指標

【億円】	日本基準		IFRS						
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	期初公表
売上収益	3,721	3,866	4,237	4,611	4,988	4,918	5,342	5,798	5,925
Core営業利益	658	756	799	773	907	806	1,032	1,303	1,430
CoreEPS(円)	83.27	85.64	94.69	95.04	116.42	102.50	138.68	176.42	198.00

中期指標

2012年実績
売上高 3,912億円
営業利益 764億円
営業利益率 19.5%

ACCEL 15実績
Core EPS CAGR*
(2012-2015)
18.3%**

IBI 18実績
Core EPS CAGR*
(2015-2018)
17.1%**

IBI 21見通し
Core EPS CAGR*
(2018-2021)
High single digit**

長期指標

Core ROIC (実績のみ開示)

*CAGR年平均成長率(%)

**3年間、一定為替ベース

Core ROICの導入目的と意義

- 企業価値拡大につながる
ROICを高めることは、経済的付加価値ひいては企業価値の拡大をもたらす
- 投資局面における投下資本効率の管理指標として有効
投資集中期間も一定水準の効率性維持、中長期的には投資効果による改善を目標として明確化
- 部門レベルまでKPI展開が可能
ROICツリーへの展開により、部門ごとにKPI指標とターゲットを設定・管理することが可能

ROICと経済的付加価値

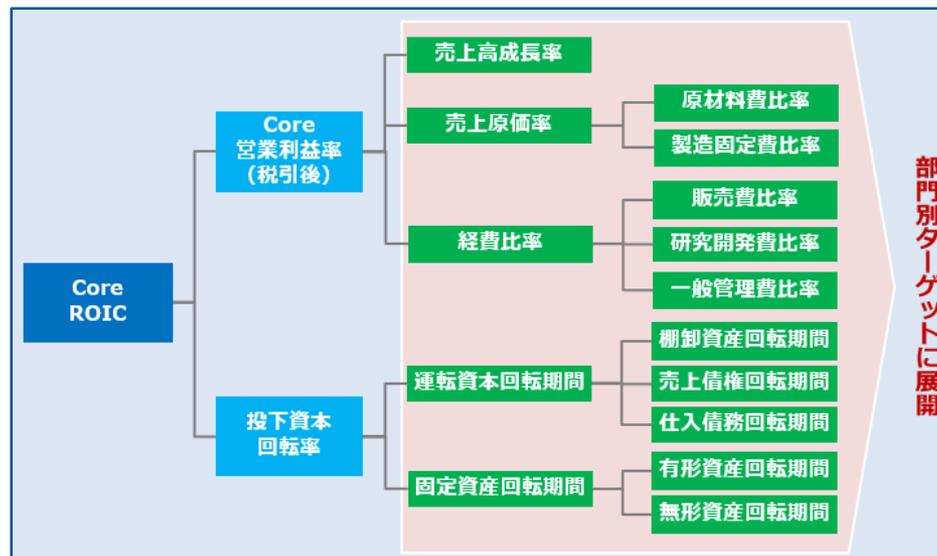
経済的付加価値 ↑ = IC × (ROIC ↑ - WACC)

IC: 投下資本 ROIC: 投下資本利益率 (= R/IC) R: 利益

将来成長のための投資

- ✓ 中分子創薬の進展、抗体改変技術の進化
- ✓ 成長に向けた新ケイパビリティ(デジタル等)強化
- ✓ 新研究所の建設と製造設備の拡充

ROICツリーによる部門展開



Core ROICの定義と実績推移

- 利益は、「Core営業利益(税引後)」とする
- 利益を生み出す投下資本(Investment Capital)は、部門の投下資本効率マネジメント意識へのつながりを考慮し、資産サイドを採用
 - 純資産からネット現金等の純営業外純資産を除く「純営業資産(NOA: Net Operating Asset)」とする

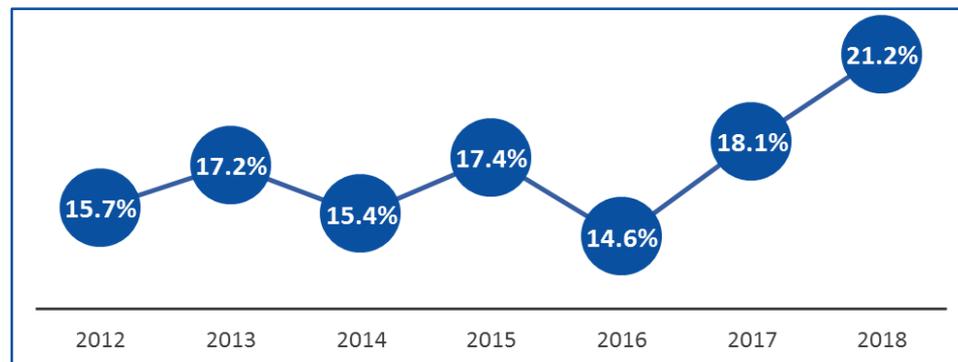
【億円】	2012年 12月末	2013年 12月末	2014年 12月末	2015年 12月末	2016年 12月末	2017年 12月末	2018年 12月末
Core営業利益(税引後)	494	544	527	644	593	786	1,001
純営業資産(NOA)	3,079	3,252	3,577	3,804	4,311	4,402	5,053
純営業外純資産	2,213	2,480	2,400	2,468	2,154	2,527	2,513
ネット現金	2,117	2,344	2,299	2,354	2,049	2,428	2,492
その他の営業外純資産	96	136	102	115	105	99	21
純資産合計	5,292	5,732	5,978	6,273	6,465	6,929	7,565

【Core ROIC計算式/実績推移】

Core営業利益(税引後)

(期首NOA+期末NOA)÷2

*NOA残高は期首と期末の平均残高で算出



開発パイプラインの状況

中外製薬株式会社
プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット
R&Dポートフォリオ部長
広瀬 稔

2019.4.24



2019年4月24日現在

開発パイプライン (1)

	Phase I	Phase II	Phase III		Filed
がん	CKI27 - 固形がん GC33 / codrituzumab - 肝細胞がん★ ERY974 - 固形がん RG7421 / コビメチニブフマル酸塩 - 固形がん RG7802 / cibisatamab - 固形がん RG7828 / mosunetuzumab - 血液がん		RG3502 / カドサイラ - 乳がん (アジュバント) RG435 / アバステン - 腎細胞がん - 肝細胞がん RG7440 / イパタセルチブ塩酸塩 - 前立腺がん - 乳がん RG7596 / ポラツスマブ ベドチン - びまん性大細胞型 B細胞リンパ腫 RG6264 /ハセプチン+パージェタ - 乳がん(配合剤、皮下注)	AF802 (RG7853) / アレセンサ - 非小細胞肺がん (アジュバント) RG7446 / テセントリク - 非小細胞肺がん (アジュバント) - 尿路上皮がん - 筋層浸潤尿路上皮がん (アジュバント) - 腎細胞がん - 腎細胞がん(アジュバント) - 早期乳がん - 卵巣がん - 前立腺がん - 肝細胞がん - 頭頸部がん(維持療法)	RG7446 / テセントリク - 乳がん - 小細胞肺がん RG6268 / エヌトレクチニブ - 固形がん - 非小細胞肺がん★
骨・関節			NRD101 / スベニール (中国) - 変形性膝関節症 / 肩関節周囲炎		ED-71 / エディロール (中国) - 骨粗鬆症
腎	EOS789 - 高リン血症				

各相の臨床試験は、原則として投与の開始をもって試験開始としています。

オレンジ: 自社品

★: 2019/1/31からの変更点

★: 中外主導の国際共同治験



2019年4月24日現在

開発パイプライン (2)

	Phase I	Phase II	Phase III	Filed
自己免疫疾患	RG7845 / fenebrutinib - 関節リウマチ		MRA (RG1569) / アクテムラ - 全身性強皮症	
神経疾患	RG7935 / prasinezumab - パーキンソン病 GYM329 (RG6237) - 神経筋疾患 RG7906 - 精神疾患 RG6100 (抗タウ抗体) - アルツハイマー病★		RG1450 / gantenerumab - アルツハイマー病 SA237 (RG6168) / サトラリズマブ - 視神経脊髄炎関連疾患★ RG6042 (HTT ASO) - ハンチントン病★ RG6206 (抗ミオスタチンadnectin) - デュシエンヌ型筋ジストロフィー (P II / III) RG7916 / リスジプラム - 脊髄性筋萎縮症 (P II / III)	
その他	PCO371 - 副甲状腺機能低下症 AMY109 - 子宮内膜症	CIM331 / ネモリズマブ* - 透析そう痒症 SKY59 (RG6107) / crovalimab - 発作性夜間ヘモグロビン尿症 (PI/II)	RG7716 / faricimab - 糖尿病黄斑浮腫 - 滲出型加齢黄斑変性★	

各相の臨床試験は、原則として投与の開始をもって試験開始としています。

オレンジ: 自社品

★: 2019/1/31からの変更点

★: 中外主導の国際共同治験

HTT ASO: HTT mRNAに対するアンチセンスオリゴヌクレオチド*

*アトピー性皮膚炎は導出先にて開発 (海外: Galderma社、国内: マルホ株式会社)



Q1における主なトピックス

承認	ヘムライブラ (欧州) アクテムラ (日本) リツキサン	血友病A(インビター非保有) サイトカイン放出症候群 CD20+ 慢性リンパ性白血病	2019年3月 2019年3月 2019年3月
申請	エヌトレクチニブ F1 CDx がんゲノムプロファイル F1 CDx がんゲノムプロファイル	<i>ROS 1+</i> NSCLC エヌトレクチニブ CDx リムパーザ CDx	2019年3月 2019年1月 2019年3月
フェーズ移行	faricimab	滲出型加齢黄斑変性	第Ⅲ相国際共同治験
パイプライン エントリー	HTT ASO 抗タウ抗体	ハンチントン病 アルツハイマー病	第Ⅲ相国際共同治験 第Ⅰ相
開発中止	クレネズマブ	アルツハイマー病	—
後期開発品 トップライン 発表	スベニール (中国) ネモリズマブ* (日本)	変形性膝関節症/ 肩関節周囲炎 アトピー性皮膚炎	第Ⅲ相 第Ⅲ相
学会発表	ネモリズマブ* (海外)	アトピー性皮膚炎(後期第Ⅱ相)	米国皮膚科学会
その他	リスジプラム	脊髄性筋萎縮症	希少疾病用医薬品指定

NSCLC: 非小細胞肺がん

F1 Cdx: FoundationOne Cdx

HTT ASO: HTT mRNAに対するアンチセンスオリゴヌクレオチド*

*アトピー性皮膚炎は導出先にて開発 (海外: Galderma社、国内: マルホ株式会社)

オレンジ: 自社品



RG6042 (HTT ASO) (1)

HTT mRNAに対するアンチセンスオリゴヌクレオチド

ハンチントン病 (Huntington's Disease)

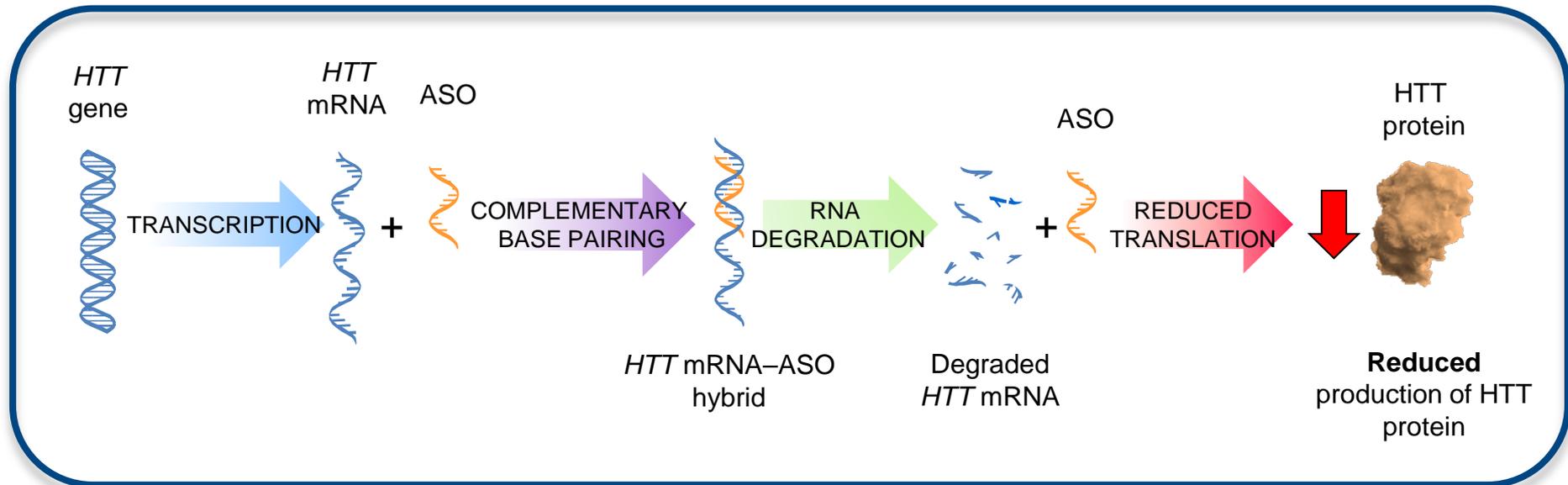
- 原因: 常染色体優性遺伝のHTT遺伝子の変異による遺伝病
- 症状: 舞踏運動を主体とする不随意運動と精神症状、認知症
- 好発年齢: 40歳台*
- 罹病期間: 10~20年
- 治療法: 根治治療はなく、対症療法が一般的
- 死因: 低位栄養、感染症、窒息、外傷等
- 国内患者数(平成26年度医療受給者証保持者数): 933人

RG6042 (HTT ASO) (2)

HTT mRNAに対するアンチセンスオリゴヌクレオチド

作用機序

- 標的mRNAに結合してリボヌクレアーゼHにより分解させ、HTT蛋白質合成を阻害
- 病勢の進行遅延・抑制が期待される



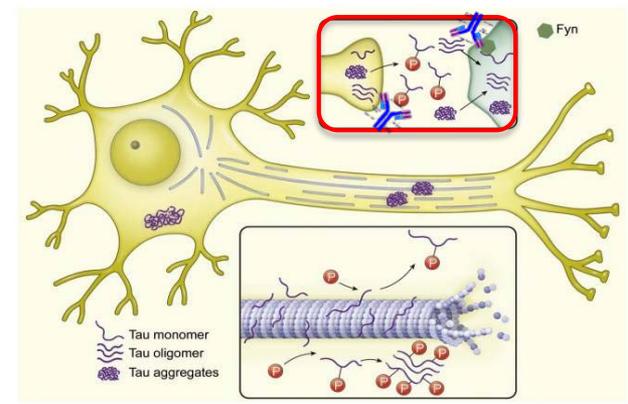
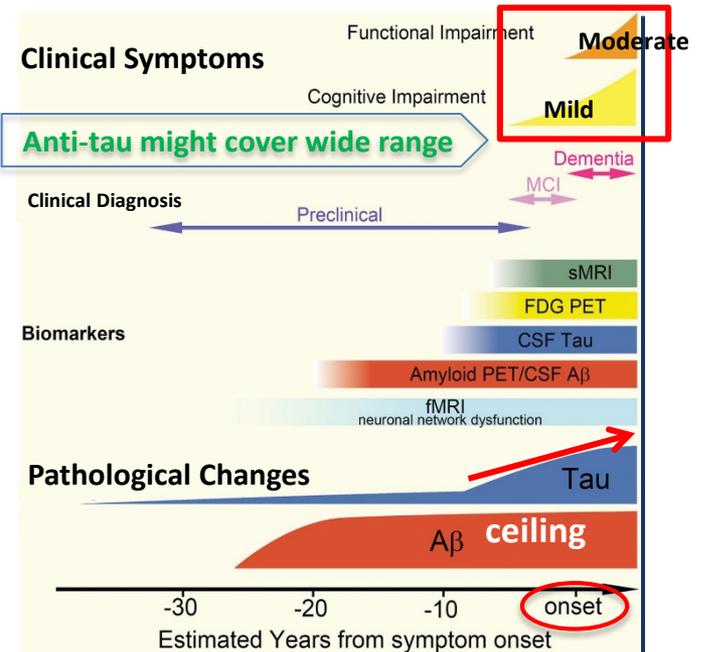
RG6100 (抗タウIgG4モノクローナル抗体)

科学的背景

- タウは、微小管結合のタンパク質の一つで、主に中枢神経系の神経細胞に発現し、微小管の重合を促進し、安定化を調節している
- ADや他のタウ関連神経変性疾患では、過剰なリン酸化等を受け、タウの凝集体が蓄積している
- タウは、細胞間隙を介して神経細胞間を伝搬すると考えられる
- 脳全体へと拡散するタウは、ADの臨床症状や病態の進行と相関する

作用機序

- 脳内の細胞間隙に存在するタウの多様なアイソフォームと結合
- タウの神経細胞を介した伝搬を抑制し、ADの進行を遅延あるいは停止させる



OBP-301 / テロメライシン

オンコリスバイオファーマ社が創製した腫瘍溶解性ウイルス

作用機序

- がん細胞で特異的に増殖し、がん細胞を破壊するように遺伝子改変された5型のアデノウイルス
- テロメラーゼ活性の高いがん細胞で特異的に増殖することで、がん細胞を溶解させる強い抗腫瘍活性を示す
- 正常な細胞の中では増殖能力が極めて低い

主な開発フェーズ

【国内】

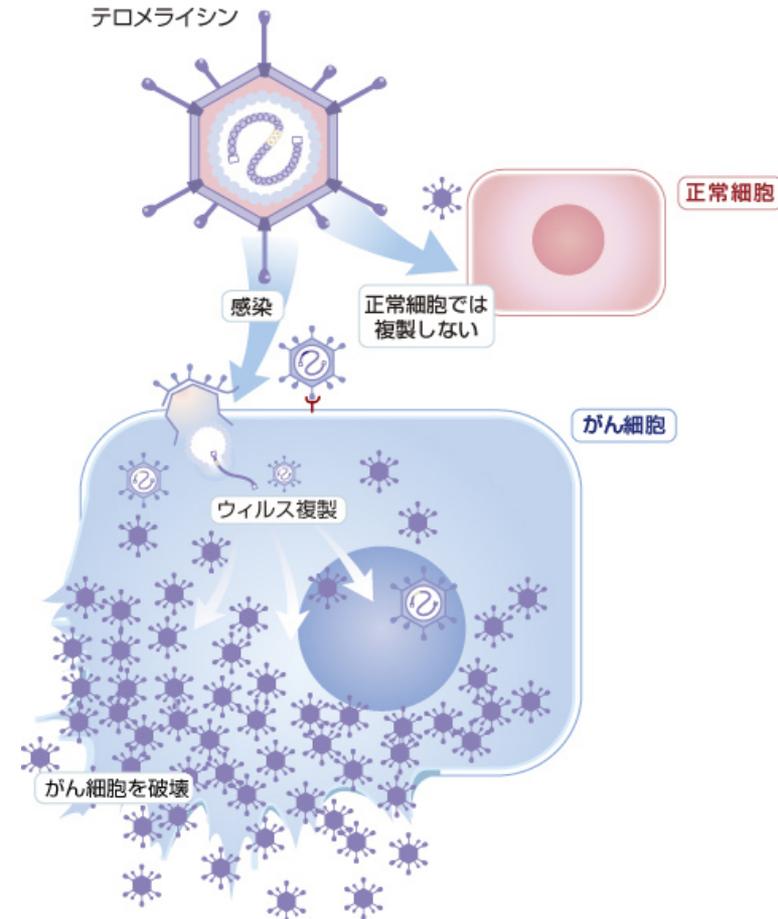
食道がん（放射線併用）: Phase I

先駆け指定 2019年4月

【海外】

メラノーマ（単剤）: Phase II（米国）

肝細胞がん（単剤）: Phase I/II（韓国・台湾）





今後の申請予定 (PoC取得済開発品・製品)

2019年4月24日現在

申請済

テセントリク (RG7446) SCLC	エディロール(中国) (ED-71) 骨粗鬆症
テセントリク (RG7446) 乳がん	エストレクテニブ (RG6268) NSCLC (ROS1+)
エストレクテニブ (RG6268) 固形がん (NTRK+)	

新規 適応拡大
 自社品 導入品

NSCLC: 非小細胞肺がん
 SCLC: 小細胞肺がん
 DLBCL: びまん性大細胞型B細胞リンパ腫
 NMOSD: 視神経脊髄炎関連疾患
 HTT ASO: *HTT* mRNAに対するアンチセンスオリゴヌクレオチド
 *筋層浸潤尿路上皮がん

	テセントリク (RG7446) 卵巣がん		アバステン (RG435) 肝細胞がん		ネモリズムブ (CIM331) ※ 透析そう痒症
	アバステン (RG435) 腎細胞がん	リスジブラム (RG7916) 脊髄性筋萎縮症	テセントリク (RG7446) 肝細胞がん	RG6264 (配合剤、皮下注) 乳がん	faricimab (RG7716) 滲出型加齢黄斑変性
サトラリズマブ (SA237/RG6168) NMOSD	テセントリク (RG7446) 腎細胞がん	RG6206 デュシェンヌ型 筋ジストロフィー	テセントリク (RG7446) 前立腺がん	ホラツスマブ ヘドチン (RG7596) DLBCL	faricimab (RG7716) 糖尿病黄斑浮腫
スベニール(中国) (NRD101) 変形性膝関節症 肩関節周囲炎	テセントリク (RG7446) 尿路上皮がん* (アジュバント)	イパセルチブ塩酸塩 (RG7440) 乳がん	テセントリク (RG7446) 早期乳がん	イパセルチブ塩酸塩 (RG7440) 前立腺がん	HTT ASO (RG6042) ハンチントン病
アクテムラ (MRA) 全身性強皮症	テセントリク (RG7446) NSCLC (アジュバント)	カドサイラ (RG3502) 乳がん (アジュバント)	テセントリク (RG7446) 尿路上皮がん	テセントリク (RG7446) 頭頸部がん (維持療法)	gantenerumab (RG1450) アルツハイマー病

2019

2020

2021

2022~

※アトピー性皮膚炎は導入先にて開発 (海外: Galderma社、国内: マルホ株式会社)

お問い合わせ先：広報IR部

報道関係者の皆様：
メディアリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0881

e-mail : pr@chugai-pharm.co.jp

担当：清水、荒木、三義、山田、横山

投資家の皆様：
インベスターリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0554

e-mail : ir@chugai-pharm.co.jp

担当：笹井、櫻井、島村、吉村